VDEC だより

2018年
3月31日
第35号

- 退任の挨拶　浅田先生より
- 浅田先生の最終講義が開催されました

東京大学 大規模集積システム設計教育研究センター

VDECからの大事なお知らせです。

同じ内容は
http://www.vdec.u-tokyo.ac.jp/Tayori/
にも掲載されています。

◆ 退任の挨拶　浅田先生より

本年 3 月末をもって東京大学を退職し VDEC センター長を退任しました。思えば 1980 年４月に東京大学工学部に職を得て最初に参加した調査研究が世界の集積回路教育実態調査でした。菅野卓雄先生の指導のもとで電気学会、電子通信学会等の調査研究委員会に参加し、科学研究費補助金総合研究でも多くの諸先生方の研究会に参加する機会を得ました。中でも電子協主催の研究会では調査の一環として５週間にわたり単独で先進各国をめぐり実態調査をする機会を得たことは、その後の研究人生の基礎を築くうえで大変貴重な経験でした。

残念ながらそのときの各調査研究に基づく集積回路設計研究センター構想は政府の採用するところとはなりませんでしたが、1990 年代に入り再び機運が高まり全国の諸先生方の支援を得て同様の構想を提案し 1996 年度概算要求で文部省に採択され VDEC を設立できたことは私の研究生活において忘れることのできない幸運でした。約 10 年越しの構想が結実したという意味でも何か運命めいたものを感じたことを記憶しています。

その後今日までの 22 年間はあっと言う間の年月でした。東京大学の多くの同僚や全国のこの分野の先生方の協力、STARC をはじめとする半導体産業界および EDA ベンダー各社の支援を得て、VDEC 事業を継続実施できたことに深く感謝しています。運営の基本方針はユーザの求めるものを提供することでした。私共自身もユーザの一人ですが、ユーザの視点に立って必要なものを常に探求する日々でした。昨年開催の設立 20 周年記念シンポジウムでは産業界代表の方から、VDEC はシェアードエコノミの先駆者であるとの趣旨のお言葉を頂戴しうれしく思った次第ですが、同時に初代センター長の鳳紘一郎先生が当時おっしゃった、VDEC は集積回路研究者の生活協同組合のようなものだという言葉も印象深く記憶に残っています。

本年４月以降、藤田昌宏教授が VDEC センター長を務めます。今後世界ではようやく情報化社会が本格化する兆しにありますが、集積回路はその共通する基礎技術としての役割を担っていくことになります。VDEC 生活協同組合では組合員全員が運命共同体であり、組合員の一致団結がある限り VDEC は存在意義があるといえます。引き続き関係各位のご支援をこころよりお願いする次第です。ありがとうございました。

浅田 邦博

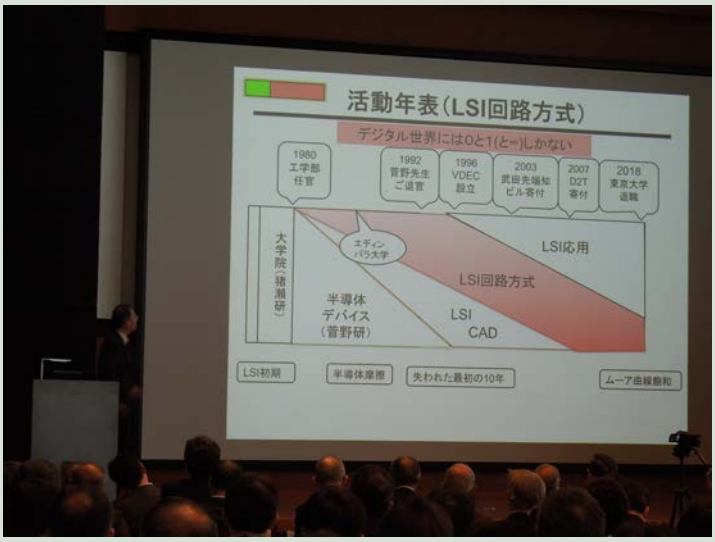
◆浅田先生の最終講義が開催されました

2018年 3月 5日(月)に浅田邦博教授の最終講義･懇談会が武田ホールにて開催されました。
ご出席いただいた皆様には、心から感謝申し上げます。
最終講義には 211名、懇談会には 162名もの方々にご参加いただき、大変な盛会でした。

最終講義当日朝の武田先端知ビル入り口

最終講義開催直前の武田ホール

最終講義開催中の武田ホールの様子



浅田先生による講義

最終講義後、秘書の皆様から花束贈呈

懇談会で挨拶をされる浅田先生

浅田先生 VDEC 発足より今まで、また、18 年の長きに渡りセンター長として
本当に有り難うございます。

VDEC 一同

VDECスタッフより…

退任の挨拶

みなさまこんにちは。名倉です。

VDEC スタッフとして着任してから 11 年が経ちました。これまで、デザイナーズフォーラムや CAD 講習会など、VDEC の各種講習会を主に担当してまいりましたが、このたび VDEC を卒業させていただくことになりました。

これまでも幾度か移籍を重ねてきたのですが、一番最初に転職する際に当時の上司から「一度転職すると転職グセが付くから気をつけなさい」と言われたのを今でも覚えています。そしてその通りになってしまいました。それはそれで様々な場所で様々な体験ができて楽しいのですが、読者のみなさまも転職することになった際には少しだけこの話を参考にしていただければ幸いです。

今後も VDEC の 1 ユーザとして外から、元 VDEC スタッフとして内から、VDEC 発展の一助となるよう尽力させていただきたいと思っております。 VDEC だよりをお読みになっている皆様とは今後とも様々な場面でお話させていただくことがあると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

名倉 徹